

平成 21 年度

病害虫発生予察注意報（第 1 号）

平成 21 年 5 月 26 日

茨城県病害虫防除所

ネギベと病が多発生しています！防除を徹底してください。

[発令の内容]

作物名：ネギ

病害虫名：べと病

発生量：多い

発生地域：県下全域

[発令の根拠]

5 月下旬現在，ネギべと病の発病度及び発生地点率は平年より高い。また，県発生予察圃（園芸研究所（笠間市））の無防除区におけるべと病の発病度も高い（表 1）。

向こう 1 か月の気象予報によると気温は平年並か低く，後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する気象条件である。特に低温，多雨条件が続く場合には発病の進展に注意が必要である。

表 1 5 月下旬のネギべと病の発生状況

地域 (調査地点数)	本年		平年	
	発病度 ¹⁾ (順位)	発生地点率 (%)	発病度 ¹⁾	発生地点率 (%)
県北(2)	18.5(2)	100	3.7	33
県南(2)	34.0(1)	100	1.2	25
県西(5)	10.4(1)	100	1.7	42
全県(9)	17.4(1)	100	2.1	36
県予察圃(無防除)	33.0(3)		13.1	

1) 1 圃場当たり 25 株について発病の有無を調査し，葉の病斑面積から次式によって算出した値

$$\text{発病度} = ((4A + 3B + 2C + D) / 4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

A：全葉面積の 31%以上に病斑が認められる。

B：全葉面積の 21～30%に病斑が認められる。

C：全葉面積の 11～20%に病斑が認められる。

D：全葉面積の 1～10%に病斑が認められる。

本年の発病度の順位及び平年値は，県北，県西は過去 10 年間，全県，県南，県予察圃は過去 11 年間中の数値

[防除対策]

発病が圃場全体に進展すると、薬剤の防除効果が劣る場合がある。初期防除に重点をおいて表 2 を参考に薬剤散布を行い、その後の発病進展に注意する。なお、前年多発生した圃場では発生状況に特に注意する。

薬剤散布後は発病状況を確認し、効果が得られない場合は追加防除を行う。またその際には他系統薬剤とのローテーション散布を行う、
薬剤散布にあたっては展着剤を加用し、散布むらのないよう丁寧に行う。また、
薬剤を散布する際は、収穫前日数に十分注意する。

発病の激しい株は、伝染源となるので、出来るだけ圃場外に持ち出して処分する。

表2 ネギべと病に登録のある主な薬剤（平成 21 年 5 月 13 日現在）

薬剤名	希釈倍数 (倍)	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の総使用回数
ランマンフロアブル	2000	3 - 4	シアゾファミド - 4
アミスター20 フロアブル	2000	3 - 4	アゾキシストロピン - 4
フェスティバルC水和剤	1000	14 - 3	ジメトモルフ - 3, 銅 - -
フォリオブラボ顆粒水和剤	1000	14 - 2	メタラキシル及びメタラキシルM - 4 (但し、種子粉衣1, は種後3), TPN - 3 (但し、土壌灌注1, 散布2)
アリエッティ水和剤	800	3 - 3	ホセチル - 3
ダコニール1000	1000	14 - 2	TPN - 3 (但し、土壌灌注1, 散布2)

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・回数・注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また、薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意してください。